



### ストーリー3

モノやヒトがいきかい歴史をつくった  
札幌の発展に大きな役割を果たした道のおはなし

### ストーリー3


モノやヒトがいきかい歴史をつくった  
札幌の発展に大きな役割を果たした道のおはなし

このストーリー  
にまつわる遺産

札幌村郷土記念館

北海道鉄道技術館

ぽすとかん



江戸時代末期に開削された「大友堀」。札幌軟石が運ばれた石山通。空知の幌内炭鉱の石炭を運んだ幌内鉄道。形は違っても物や人を運ぶための“道”がまちの発展を支えました。

### ストーリー3

モノやヒトがいきかい歴史をつくった  
札幌の発展に大きな役割を果たした道のおはなし

#### 札幌村郷土記念館



江戸時代末期の慶応2年（1866年）、幕府の役人大友亀太郎が物資の輸送のために開削したのが「大友堀」です。大友堀は当時、豊平川支流の胆振川の取水口（南三条）から北へ一直線に北六条迄進んでおり、開拓使判官・島義勇が札幌のまちを碁盤の目に区切る際、南北に流れる大友堀を東西の起点にしたと言われています。この堀は草創期の札幌の輸送を支え、現在は創成川の一部となっています。

### ストーリー3

モノやヒトがいきかい歴史をつくった  
札幌の発展に大きな役割を果たした道のおはなし

#### 北海道鉄道技術館



北海道の鉄道の歴史は空知の幌内炭  
鉱の石炭を小樽に運ぶために作られ  
た1880年開業の官営幌内鉄道に始  
まります。その後鉄道網は道内各地  
に広がっていきました。JR苗穂工場  
内にある北海道鉄道技術館では北海  
道の鉄道の歴史を伝えることを目的  
に多くの鉄道関連の資料を展示して  
います。

### ストーリー3

モノやヒトがいきかい歴史をつくった  
札幌の発展に大きな役割を果たした道のおはなし

#### ぽすとかん



明治～昭和初期に建材として多く使われた札幌軟石は、札幌市南区で採掘され、現在の石山通を通過して市内へ運ばれていました。石山から真駒内を通過して山鼻地区まで、直線馬車道が敷かれ、石材を積んだ馬車が通り、大変活気に満ちていました。現在は、夏は支笏・洞爺方面、冬は定山溪・ニセコ方面への行楽客でにぎわいをみせています。



### ストーリー3

モノやヒトがいきかい歴史をつくった  
札幌の発展に大きな役割を果たした道のおはなし



### ◇アクセス情報◇

それぞれの建物にはまだまだ多くの物語があります。ぜひ訪れてみてください。

- ▶ 札幌村郷土記念館・・・地下鉄東豊線「環状通東」4番出口から徒歩3分  
札幌村郷土記念館から北海道鉄道技術館は徒歩で約15分
- ▶ 北海道鉄道技術館・・・JR「苗穂」下車、北口から徒歩約15分  
北海道鉄道技術館からぽすとかんは約1時間。ぽすとかんは地下鉄南北線「大通」からだ約40分です
- ▶ ぽすとかん・・・地下鉄南北線「真駒内」から、じょうてつバス [12] 真駒内線（藤野線）乗車、  
「石山中央」下車、徒歩2分